

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (USD)	日本円	備考
授業料	6,515	944,675 円	10 単位 以下全て\$1=145 円で計算
宿舍費	6289.24	911939 円	lhouse 食事つき、1 人部屋
食費		円	
図書費	235	34,075 円	教科書 2 冊
学用品費		円	
携帯・インターネット費	124	18,000 円	Yellow mobile 月 5,000 円 30GB
現地交通費		円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費	195	28,265 円	形態: 明治大学指定の保険
渡航旅費	1,390	201,622 円	
ビザ申請費	535	77,575 円	SEVIS 費用、ビザ申請費用
雑費		円	
その他	4,828	700,000 円	外食費、交通費、お土産、旅行等娯楽
その他		円	
合計	20111.24	2,916,130 円	

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:羽田 目的地:サンフランシスコ 経由地:ロサンゼルス	
復路 出発地:サンフランシスコ 目的地:羽田 経由地:ロサンゼルス	
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金:	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:United 料金:103,117 復路 航空会社:Delta 料金:98,505 ∴合計:201,622	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:)	
<input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:Trip.cpm)	
<input type="checkbox"/> その他()	

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

学生寮(寮の名前:International House) アパート ホームステイ

2)部屋の形態

個室 相部屋(同居人数)

3)共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4)住居を探した方法:

留学報告書にIhouseが良いと書いてあった。

5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

Ihouseには様々な国から来た学生がいたのでいろいろな人と話すことができたし、遊びに行ったり、旅行もできて楽しかった。中には大学院生やリサーチで来てる人もいた。料理に関しては文句を言っている人もいたが自分的にはおいしくて満足できるものだった。平日3食、休日2食すべて食べ放題なので食べすぎ注意。全体として特に不満はなく快適に過ごすことができたが、日本人が約15人と非常に多く、日本人と絡みたくない人にとってはお勧めしない。ただ、Ihouse以外の選択肢としてはUnit1がメインだが、料理があまりおいしくなく、寮生同士の交流も少なかつつまらなさそうだった。1人部屋か相部屋が良いかはその人次第、自分は一人部屋で勉強や睡眠を邪魔されなくてよかったと思う。

現地情報

1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院、学内の診療所)

なし
あり(治療を受けた場所:)2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。
(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)なし
あり(問題の内容や相談した人等:)

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

大学からのメール。犯罪等に巻き込まれたことはなかった。

4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWiFi接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

携帯電話はYellow mobileで契約した。特に不満はなかった。寮のWi-Fiも基本的には問題なく使えていたが場所によっては弱く、使い物にならないときがある。また、途中で通信回線の工事を行っていたためその時は数日間つながりが悪かった。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

日本からドルを多めに持って行った。旅行代金をクレジットで払って現金をもらった

6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

自分の身体にあった薬

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

クレジットカードを使って2月下旬頃に支払った。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
10 単位		<input checked="" type="checkbox"/> 不明単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:		
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
Financial Information Analysis		財務情報分析
科目設置学部・研究科	UGBA	
履修期間	SessionA	
単位数	4	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	対面で講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1週間に 150 分が 5 回	
担当教授	Francis V Stanton	
授業内容	<p>仕訳、計算、分析を幅広く行う会計の応用授業。ビジネスバリュエーションや信用リスク評価など一部ファイナンスの分野も含まれる。</p> <p>発生主義や棚卸資産、有形固定資産などの基礎的な分野からキャッシュフロー計算書、税効果会計、リースなどの比較的高度な論点までカバーしている。また、応用科目だけあって単に会計基準に基づいた仕訳や計算方法を学ぶだけではなくグループでのケーススタディを通して実践的に学び、利益管理やタックスプランニングにも少し触れる。</p> <p>基本的には教授が講義を進めてその都度問題を解き、グループワークに取り組む。自主的に発言する機会や質問する機会もあり、あてられることもたまにある。</p>	
試験・課題など	<p>基本的に 1 日 1 つの論点を扱い、論点ごとに Homework(15%)と Review Assignment(10%)がある。ただ、そこまで量は多くなく、特に HW は何度でも挑戦することができるため確実にポイントを稼ぐことができる。グループワークは 11%を占め、授業内で行われる。</p> <p>試験は中間(30%)と期末(35%)の 2 回あり、対面でコンピュータを用いて行った。</p> <p>問題はほぼ選択式で、論点の理解を確認する問題や計算問題が中心だった。特に難しいということではなく、HW、RA、GW の数字を変えた問題が多く出題されたが、初見の問題も数問あった。それぞれ 30 問ずつ程度で時間は余るほどであった。</p>	
感想を自由記入	<p>この授業は会計の応用授業だが教授はフレンドリーで優しく、10 人程度の少人数クラスだったため、最初のほうは借方と貸方の違いなど基礎的な部分をおさらいしながら授業を進めてくれた。アメリカには会計士志望の人でも日本の会計士受験生のように会計の勉強にすべてをさげている学生はいないので会計のレベルに関しては日本の学生のほうが高いと思う。私は米国公認会計士試験の科目合格をしている状態で授業を受けたので内容に関して苦戦したことはほとんど無かったが、応用科目のため、履修するならば最低日商簿記 2 級を取得していることが望ましい。ただ、予習、復習をして授業に出席し、提出物をすべて出して最後までやり抜けば単位を獲得することはできると思うので英語で会計を学ぶことに興味がある学生には履修をお勧めしたい。特に USCPA 受験生には適した授業だと思う。</p>	

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Managerial Accounting		管理会計	
科目設置学部・研究科	UGBA		
履修期間	Session D		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	対面で講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が4回		
担当教授	Jay Patel		
授業内容	<p>KPMG やオラクルに勤務し、自らもビジネスを持つ経験豊富な教授から管理会計を網羅的に学ぶことができる授業。授業名からは基礎的な内容を扱う感じがあるが、スライドの枚数は80を超えることもあり、ボリュームも深さもある授業となっている。</p> <p>基礎的な原価計算や CVP 分析、差異分析だけでなく予算策定、BSC、業績評価、投資の意思決定など様々なトピックを扱う。1回の授業で扱うボリュームが多く、進みも早いので会計も英語もある程度できて授業内で扱う問題に関しては予習が必要。授業内では質問や問題の回答など学生からの発言が頻りに飛んでいたが指名されるということはなかった。授業時間外でのグループワークもあった。出欠確認はなかった。</p>		
試験・課題など	<p>1日に2つのチャプターを扱うこともあり、チャプターごとにクイズがあった。13%とそこまで割合は多くないが提出期限が翌日なので復習と次の日の予習に追われた。グループワークが2回あり、合計で22%を占めた。授業時間外に各チーム3,4人で課題に取り組んだ。2回目のグループワークではZOOMでプレゼンテーションを録画して提出した。</p> <p>試験は2週間ごとに合計3回あり、各20%ずつで、対面で紙媒体での試験だった。1枚だけカンニングペーパーの持ち込みが可能だった。選択問題だけでなく計算過程を書く問題が多く、中には1,2行の文で答える問題もあった。時間が少し短い十分に理解していれば満点を取ることが可能。</p>		
感想を自由記入	<p>先生のやる気がすごく感じられる授業だった。しかし、それが故に量が多く時間を10分程度オーバーすることも何度もあった。チャプターごとに取り組むべき問題が指示されている。これらは提出が義務付けられているものではないためやらなくても良いがクイズや試験で点を取るためには取り組むことは必須だった。すべてを解いて理解するのは大変だった。そのため授業時間外の学習も多かった。ただ、これらの問題をスムーズに解くことができればクイズも試験も8割以上は堅い。40人程度が履修していたと思うが中には途中でドロップする人も何人かいた。語学の面を考慮すると、履修をするならば最低限、日商簿記2級の工業簿記を学習済みであることが望ましいと感じた。</p>		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to International Business	国際ビジネス総論
科目設置学部・研究科	UGBA
履修期間	Session D
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	対面講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が3回
担当教授	Dan Himelstein
授業内容	その名の通り国際ビジネス全般についてただひたすらに教授が話す授業。経済の話や貿易、企業戦略、R&D や HR などトピックは多岐にわたる。自由に発言することは可能だが95%は教授が話している。スライドもあるがおまけ程度。ただ教授の経験を交えた話は興味深いものが多く、日本企業が頻繁に登場するため面白かったが、休憩なしで2時間話を聞き続けるのは大変だった。授業内でのディスカッションが2回あり成績の5%を占める。出欠確認は毎回ではないが抜き打ちで行わる。成績の15%を占めていた。
試験・課題など	日常的な課題はないが、ディスカッションのための話題を提出する必要がある。中間試験(35%)、期末試験(45%)があるがどちらもレポート。アップルとコカ・コーラの企業戦略について問題提起と分析、解決策の提案を行った。
感想を自由記入	60人程度の授業で聞くことがメインの授業のため一番楽な授業だった。そのため自分の期待より得られるものは少なかったが、もう一つの授業が重めだった上に自由時間も確保したかったので結果的にちょうど良かったのかもしれない。より学びを得たいのであれば他の授業を取ることをお勧めする。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

ワンキャリア、キャリアタス、外資就活

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

監査法人

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例:留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

サマーセッション中に夏インターンの応募のピークを迎えるので志望業界や志望企業を探してみたりESの作成やWEBテストの勉強は留学前にやっておくと良い。そうすればサマーセッション中は最低限の就活で留学を楽しめるし、秋以降の就活もスムーズに取り組める。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、
期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	予防接種 2 回目
	4月～7月	予防接種 3 回目
	8月～9月	
	10月～12月	学内選考
留学開始年	1月～3月	出願、滞在先確保、
	4月～7月	航空券購入、ビザ申請、渡航、Session A
	8月～9月	Session D、帰国、書類提出
	10月～12月	
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

私がバークレーを選んだ理由は会計の授業が豊富にあったからです。米国公認会計士試験に合格することを目標に勉強を進めていくうちにアメリカで現地の学生が受けている授業を自分も受けてみたいと思うようになりました。UCBかUCLAの2つで迷いましたが最終的に会計の授業が多かったUCBを選択しました。結果的にこの選択は良かったと思っています。それは授業の面だけではなく生活面、特に出会う人々に恵まれたからだと思います。様々な国から来た多様なバックグラウンドを持った人々と交流できたことは貴重な経験となりました。ただ話すだけではなく遊んだり、旅行に行くことでより仲を深めることができ、留学期間だけにとどまらない友達を作ることができました。

アメリカでは個人主義で各々行動しているイメージでしたが意外とグループで固まっており、特に寮の中では集団生活をしているような感じがありました。その中でメリハリをつけて一人でジムに行ったり、勉強する時間を確保したことは正解だったと思っています。ただ、あまりに個人で行動しすぎると留学に行く意味が半減してしまいます。なぜなら大学で勉強することだけではなくアメリカという国がどういうものなのか五感を使って感じることや、環境の変化に自分自身がどう影響を受けるのかなど、そういった日本ではできない経験に留学の意義があると思うからです。このバランスをうまく取れたことが、留学が私にとって良いものになったと言える大きな要因だと思います。

お金の面や就活の事など不安なことはたくさんあると思いますがしっかりと調べ、経験者に話を聞いたうえで覚悟を持ち、思い切って決断すれば後悔のない充実した留学をすることができると思います。